

## 「関東市区町村 2020 年国勢調査の一覧表」からわかること

### ～データの解説 & 町田市の結果を中心に～

#### ■人口・世帯数

町田市の人口は、431,079 人、5 年間の人口の増減率は、 $-0.3\%$ の減少である。(全国 $-0.7\%$ 、東京都 $+3.9\%$ )

隣接市区で減少したところは、横浜市瀬谷区、相模原市緑区の 2 市区のみで、それ以外の市区は増加であるが、八王子市、多摩市、横浜市青葉区は、プラスであるがほぼ横バイに近い。

世帯数は、192,015 世帯、5 年間の世帯の増減率は、 $+2.8\%$ (全国 $+4.5\%$ 、東京都 $+7.9\%$ )で全国、東京都に比べ低い。また隣接市区の中では、世帯の増加率が最も低い。

**※ 周辺市区に比べ、町田市は、人口が減少し、かつ、世帯の増加の伸びも鈍い。**

- 
- ・ 東京都内の市部で減少した市は、青梅市、福生市、東大和市、東久留米市、武蔵村山市、羽村市、あきる野市で、多摩北部で多い。ちなみに都内町村部は、すべてで減少。
  - ・ 一方、多摩地域で 5%台の増加率を見せているのは、調布市、国分寺市、狛江市、稲城市。

#### ★人口減少し、世帯数が増加するという現象

人口が減少しながらも、世帯数が増加するという妙な現象が続いています。世帯人員の平均人数の小規模化が原因ですが、どのような形態・パターンが多いのかはどこも把握していないようです。

ちなみに、今回提供する表の内訳をみると、人口、世帯とも減少 63 件、人口は減少、世帯数が増加 153 件、人口、世帯とも増加が 153 件です。※都県全体、政令都市の小計含む。

#### ■転入指数(転入者数/5 歳以上の人口) ※5 年前の居住地から

転入指数は、5 歳以上の人口に対する転入人口の割合。高いほど、その市区町村へ転入者数の割合が高く、他の市区町村から転居者を集まっていることを示す。

町田市の場合、 $11.0\%$ 、小田急沿線で隣接する川崎市麻生区( $13.6\%$ )、相模原市南区( $12.0\%$ )、大和市( $11.3\%$ )に比べ若干低い。(全国  $10.8\%$ 、東京都  $14.2\%$ )

---

多摩の代表市では、立川市( $13.1\%$ )、八王子市( $11.1\%$ )。ちなみに多摩地域で最も高いのは、武蔵野市  $20.2\%$ 。転入の促進策を積極的に展開している千葉県流山市が  $17.3\%$ 、千葉県内で最も高い数値を示す。

## ■人口性比(男性/女性)

人口性比は、95.5%で、ほぼ全国並み(94.7%)。東京都 96.5%。

---

ちなみに 80%台で女性の割合が非常に高い市区は、目黒区、世田谷区、鎌倉市、逗子市、葉山町等である。住宅地として人気の高いエリアのようである。

## ■20～69 歳の未婚率 30.3%(全国 30.2%、東京都 35.1%)

関東で最も高いのは、箱根町の 45.1%、都内 23 区で高い区が多く見られる。

## ■外国人比率 1.5%(全国 1.9%、東京都 3.4%)

隣接市区で高いのは、大和市(2.6%)

---

関東で最も高いのは、群馬県大泉町(17.6%)。都内では豊島区の 8.5%が最も高い。23 区内は、5%を越えるところが多く見られる。

## ■平均年齢

平均年齢は、47.4 歳、全国が 47.7 歳、東京都が 45.3 歳で、全国並みで、東京都に比べ 2 歳ほど高い。隣接市区で 47 歳台に到達しているのは、多摩市、横浜市瀬谷区、横浜市緑区。

年齢の 3 区分は、15 歳未満 12.2%、15～64 歳 60.2%、65 歳以上 27.7%。

---

平均年齢が関東で最も若いのは、御蔵島村 40.9 歳、次いで川崎市中原区 41.2 歳、戸田市 41.6 歳、千代田区・和光市 41.9 歳。また、中央区、港区も 43 歳未満と若い。

一方、平均年齢 60 歳を超えるのが、群馬県神流町(65.1 歳)、下仁田町(60.5 歳)、南牧村(68.2 歳)、東京都桧原村(61.2 歳)。

## ■一般世帯人員

平均が 2.2 人、単身世帯が 37.2%、2 人以上の世帯が全体の 6 割強を占める。全国平均 2.2 人(単身世帯 38.0%)、東京都 1.9 人(単身世帯 50.2%)。

隣接市区は、2.1 人～2.3 人で大きな差はない。

---

東京 23 区内は、多くの区で単身世帯が 50%に届き、23 区内は 2 世帯に 1 世帯が単身世帯

## ■住宅所有と建て方

持ち家は、58.5%、全国並み(60.6%)で、東京都(45.7%)に比べ高い。なお、多くの隣接市区と大きな差はない。公営・都市再生機構・公社の借家が12.0%で、隣接市区の中では、多摩市(16.7%)に次いで高い。ちなみに東京都は6.4%。

一戸建ての割合が48.7%で、隣接市区の中では相模原市緑区、横浜市瀬谷区に次いで高い。(全国53.1%、東京都28.3%)、また、共同住宅が48.8%で半数近くであるが、隣接市区の中では、やや低い方には入る。(全国44.0%、東京都69.6%、多摩市75.1%)

共同住宅が高いのは、当然であるが、23区内で高く、特に中央区、港区は、住民の9割以上が共同住宅に居住している。

## ■都市計画の地域区分(人口分布構成)

その市区町村の居住者がどのような地域に居住しているかの人口分布状況を示す。

町田市の都市計画の地域区分(人口分布構成)は、工業区域が7%、商業区域が8%、住居区域が84%の分布構成となっている。ちなみに横浜市青葉区、川崎市麻生区は、90%以上が住居地域の居住者である。

荒川区、江東区、墨田区は、工業区域の居住者の割合が高く、全人口の60~80%台が工業区域に居住している。また、千代田区、台東区は、全人口の80%以上が商業区域に居住している。

## ■就業率

男女合計49.3%、女性の就業率42.5%で、隣接市区と大きな差はない。(全国53.2%、46.5% 東京都49.5%、44.2%)

就業上の地位の「役員」の割合は、2.9%、隣接市区の中では、横浜市青葉区(3.9%)、川崎市麻生区(3.1%)に次いで高いが、東京都全体に比べやや低く、経営者層は少ないことがわかる。(全国2.9%、東京都3.6%)

## ■就業者の職業

就業者の職業は、エリアマーケティングを展開するに当たって大変重要な指標と言えます。その人がどのような仕事をしているかの具体的な内容です。机に向かっている仕事なのか、現場で働いている仕事なのか、ホワイトカラー系とブルーカラー・農業漁業系に大きく2分類に分けることができます。年収やライフスタイルに大きく関連します。なお、従業先の企業の産業分類は、重要視しません。

ホワイトカラーは、「A\_管理的職業従事者」「B\_専門的・技術的職業従事者」「C\_事務従事者」の3分類ですが、特に「A\_管理的職業従事者」「B\_専門的・技術的職業従事者」に注目、年収も高くなっています。店舗周辺の商圈調査をする場合、性年代・世帯人員の基本属性と一緒に必ず確

認する必要があります。一方、生産系等のブルーカラー・農林漁業系の割合が高い地域は、年収は、落ちますが、残業が少ないため、ホワイトカラーに比べ時間制約が少ないです。

町田市の場合、「A\_管理的職業従事者」「B\_専門的・技術的職業従事者」「C\_事務従事者」で構成されるホワイトカラーの割合が 47.1%、隣接市区の中では、川崎市麻生区(57.0%)、横浜市青葉区(56.8%)、多摩市(50.8%)に次いで 4 番目に高い。(全国 40.1%、東京都 52.8%)

生産系等のブルーカラー・農林漁業系の割合は、23.1%、相模原市緑区(34.1%)、同中央区(33.1%)、横浜市瀬谷区(29.7%)、大和市(28.6%)に比べやや低い。(全国 33.4%、東京都 19.1%)  
町田市の就業者は、隣接市区の中では、職業的には中間的な位置づけと言えます。

-----  
関東でホワイトカラーの割合が高いのは、文京区(71.7%)、千代田区(68.0%)、港区(66.3%)等、23 区の地域が高くなっています。

一方、労務(ブルーカラー系)・農林漁業系が高いのは、昭和村(65.5%、農林漁業 42.2%)、東京都内(島しょ部除く)では、青梅市(34.8%)、福生市(32.6%)、武蔵村山市(38.9%)、羽村市(34.8%)、あきる野市(34.5%)、瑞穂町(43.9%)、奥多摩町(40.7%)で高く、多摩北部地域で高い。

### ■卒業者の高学歴者の割合

卒業者における大学 & 大学院の割合は、31.5%、東京都(31.6%)のほぼ同値である。(全国 21.7%) 隣接市区では、横浜市青葉区が 43.8%、川崎市麻生区が 40.4%となっており、近隣地域では飛び抜けた値。

-----  
関東で高いのは、文京区(47.8%)、さいたま市浦和区(44.7%)、武蔵野市(44.4%)、中央区(44.1%)、横浜市青葉区(43.8%)、千代田区(43.1%)の順。

### ■通勤者・通学者の利用交通機関

電車が 51.3%で半数。次いで車が 22.4%、乗り合いバスが 20.1%。(東京都：電車 60.1%、車 10.2%、乗り合いバス 10.4%) 乗り合いバスのイメージある町田市であるが、横浜市青葉区(22.0%)、多摩市(20.6%)と同レベル。

電車は、横浜市青葉区(67.8%)、川崎市麻生区(67.9%)で高い。また、車は、相模原市緑区(41.2%)、中央区(31.0%)で高い。\*なお、乗り合いバスや自転車等は、勤務地・通学地近くでの利用も含むので注意

-----  
車通勤は、茨城県、栃木県、群馬県が 7 割台、埼玉県が 3 割台。東京都・神奈川県は、電車が 5~6 割台。

乗り合いバスが高いのは、葉山町(36.5%)、横浜市栄区(27.2%)、同戸塚区(26.8%)。